

令和2年度事業報告・令和3年度事業予定

令和2年度事業報告

1 感染症対策を踏まえた避難所開設マニュアルの作成

従来の避難所開設マニュアルに感染症対策を踏まえた内容を追加し、避難所対応を行う職員を集めた検証訓練を6月に精道小学校で実施した。また、その検証訓練の内容を反映してマニュアルを修正し、8月に潮見小学校で地域住民を交えた検証訓練を実施した。

<精道小学校>



日時 : 令和2年6月25日(木) 15:00~17:00

場所 : 精道小学校

参加者 : 合計49名(市避難所管理部, 学校避難所管理部, 施設管理者, 避難対策部医療班, 兵庫県芦屋健康福祉事務所)

実施内容 : 各エリア(総合受付, 有症状者受付, 分離室, 一般受付, 一般避難スペース, 福祉避難スペース)と動線の確認, 部屋の使い方・レイアウト・避難者への案内や掲示物等についての検証

<潮見小学校>



日時 : 令和2年8月21日(金) 15:30~17:30

場所 : 潮見小学校

参加者 : 合計43名(潮見小学校区自主防災会及び防災士, 自主防災会連絡協議会理事及び芦屋防災士の会理事, 避難所管理部, 学校避難所管理部, 施設管理者, 避難対策部医療班, 潮見小学校教員)

実施内容：各エリア（総合受付，一般受付，一般避難スペース，有症状者受付，分離室）の設営，受付と運営のロールプレイ

2 感染症対策を踏まえた避難スペースの拡充

本市では主に公共施設の避難所を市内41箇所(令和3年4月1日時点)指定しているが、避難所は3つの密（密閉，密集，密接）になりやすく感染が拡大しやすい環境にあるため、様々な被災状況を想定し、既指定の避難所に加えて新たな避難スペースの確保が必要になったことから、市内のホテルや寄宿舎，教会などに依頼を行った。その結果，3施設と覚書を締結した。また，既存の避難所に関しても，現在使用予定としている部屋以外で活用できるスペースがないか見直しを行った。

3 市立山手中学校耐震性貯水槽設置に関する詳細設計

令和3年度の山手中学校グラウンド整備工事に伴い，耐震性貯水槽をグラウンド部分に設置するための詳細設計業務委託を行った。

4 地区防災計画の推進

津波浸水想定区域や土砂災害警戒区域を中心に地区防災計画の策定を推進するため，当該区域の自治会等を中心にワークショップ等を開催。また，自主防災会育成事業補助金の補助メニューとして新たに「地区防災計画の策定・更新支援」を創設した。

5 令和2年度 防災総合訓練

令和3年1月31日に市民向けにオンライン防災講演会を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえた避難所及び福祉避難所開設運営訓練を地元の自主防災組織及び福祉避難所施設関係者を交えて実施する予定だったが，緊急事態宣言の発令に伴い，避難所開設訓練等は延期し，オンライン防災講演会を実施した。

さらに，「オンライン防災講演会」周知チラシの裏面を活用し，市民へ啓発したい内容をクイズ形式で掲載し，気軽に幅広い年齢層の市民に防災啓発を行った。防災クイズ回答者を対象に「役立つ防災ミニグッズ」プレゼント企画を実施した。

| 講師 | 講演内容 |
|---------------------------|----------------------------------|
| 人と防災未来センター 研究員 高岡 誠子 氏 | (オンライン防災講演会) 複合災害を踏まえた避難所について |

視聴者数：累計視聴者数（24時間累計） 535人

ライブ配信中視聴者数 308人

防災クイズ申込者数：76人

6 感染症対策を踏まえた福祉避難所の開設運営訓練

既存のマニュアルを基に感染症対策を踏まえた訓練を実施した。

日時：令和3年3月21日（日）10:00～12:30

場所：保健福祉センター

参加者：合計43名（芦屋市災害対策本部援護班及び医療班，防災安全課，芦屋市保健福祉センター従事者等）

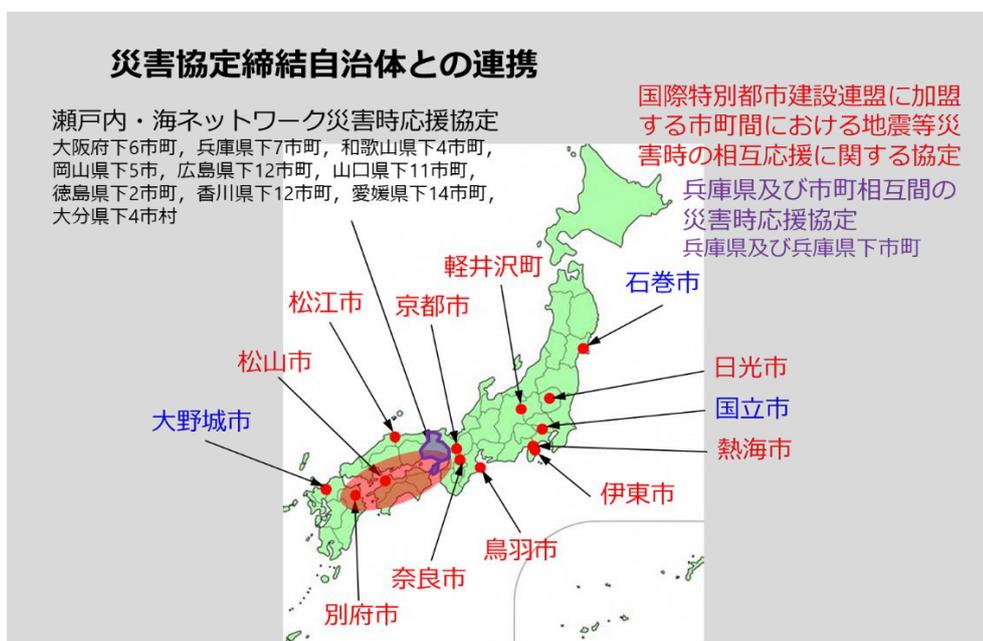
実施内容：移送車両取扱訓練，避難者の受付・誘導，健康観察，有症状者の振り分け，資機材組立て等



7 災害協定自治体との連携

令和3年2月に国際特別都市建設連盟防災担当者会議が書面開催され，各市町と情報交換を行った。福岡県大野城市とも随時電話等で情報交換を行った。

<災害協定締結自治体>



8 防災士養成講座の開催

令和元年度に引き続き、第5回 防災士養成講座を開催した。

※過去、平成21年度、平成27年度、平成30年度にも同講座を実施している

場 所：本庁舎東館3階大会議室

受講者：49名（内訳：市民16名、消防団5名、市職員28名）

| 令和2年10月31日（土） | |
|----------------------------------|--|
| 特定非営利活動法人 日本防災士会 全国講師 横山 恭子 氏 | 防災士に期待される活動について |
| 兵庫県立大学 環境人間学部 教授 木村 玲欧 氏 | 地域防災とその取組事例について |
| 関西大学 社会安全学部 准教授 奥村 与志弘 氏 | 南海トラフ巨大地震と内陸直下型地震 ～発生メカニズムと対策について～ |
| 東京大学大学院 准教授 廣井 悠 氏 | 大規模災害時の複合災害（感染症含む）における 避難のあり方（在宅避難含む）について |
| 令和2年11月14日（土） | |
| 高知県立大学大学院 看護学研究科 教授 神原 咲子 氏 | 地域防災、災害医療及び公衆衛生 （感染症対策時の避難所運営ワークショップ含む） |
| 東京大学 生産技術研究所 准教授 沼田 宗純 氏 | 地域の自主防災組織における危機管理とタイムライ ン |
| 関西大学 社会安全学部 教授 山崎 栄一 氏 | 被災者生活・災害時要援護者対策 |
| 令和2年11月28日（土） | |
| 神戸地方気象台 防災管理官 小林 和樹 氏 | 風水害と防災気象情報の活用について |
| 神戸大学 名誉教授 沖村 孝 氏 | 近年の豪雨による水害・土砂災害の発生 ～災害概況と犠牲者ゼロを目指して～ |
| 東京大学 生産技術研究所 リサーチフェロー 田中 健一 氏 | 地域防災力向上のための危機管理と災害対策 （講義及び演習） |
| ひょうごボランティアプラザ 所長 高橋 守雄 氏 | 地域防災と災害ボランティアについて |

9 地域の防災活動推進

従前の地域防災訓練等の支援に加え、避難所におけるコロナウイルス感染拡大防止のため、感染症対策を踏まえた避難行動のあり方や住民主体の避難所開設等について、自主防災訓練や出前講座等を通じて啓発した。

10 土砂災害・津波防災情報マップの改訂

防災情報マップを一層活用しやすくするために、毎年発行している土砂災害・津波防災情報マップのレイアウトを大幅に変更し、全戸配布した。

主な変更点

- ・ マップの使い方
- ・ 自分や家族の避難先や避難方法を確認できるように避難行動確認フロー
- ・ 地図情報の凡例に用語の説明
- ・ 硬貨を使ってマップ上でおよその距離と時間を計測できる啓発を追加
- ・ 開設される避難所とそのタイミングを確認できるよう使用できる避難所を警戒レベルごと（段階的）に掲載
- ・ 浸水深の目安や土砂災害情報の解説やイラストで災害をイメージできるよう啓発を追加
- ・ その他避難方法の種類や逃げ方のポイント、土砂災害に関わる情報

11 芦屋市コミュニケーション支援ボード（災害版）の作成

知的障がいのある方、聴覚障がいのある方や高齢の方、日本語が分からない外国の方等の災害時の被災生活を送る上でのバリアを少なくするため、意思確認や要望の内容を分かりやすいイラストカードにし、それを指差すことで意思確認できるよう作成したもの。災害時に市内の避難所に配備する。



【参考】急傾斜地崩壊防止対策事業（兵庫県実施事業）

令和3年1月末に兵庫県とともに、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の新規指定にかかるオープンハウス方式による説明会を実施した。3月末に奥池町と三条町で土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域が兵庫県により新規で指定された。

令和3年度事業予定

1 感染症対策を踏まえた避難所開設マニュアルの作成

令和2年度に作成したマニュアルを基に各避難所における感染症対策を踏まえた避難所開設マニュアルを作成していく。施設ごとにゾーニングを考え、既存のマニュアルに落とし込み、訓練等を実施していく予定。

2 福祉避難所開設運営マニュアルの作成

令和2年度に実施した保健福祉センターでの避難所開設訓練を踏まえ、各施設に応じた福祉避難所開設運営マニュアルを作成していく。令和3年度はみどり地域生活支援センターでの福祉避難所開設訓練及びマニュアル作成に取り組む予定。

3 令和3年度 防災総合訓練

令和3年11月～令和4年1月頃実施予定。新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況を踏まえ、内容等は検討中。

4 地区防災計画の推進

委託業務による地区防災計画の策定支援を行う。地区防災計画策定の取り組みを希望する地区には、年間スケジュールの提案やワークショップの開催支援、地区防災計画（案）の作成等の支援を受けることができる。

また、地区防災計画制度自体の啓発を図るため、専門家によるセミナーを実施予定。

5 防災士養成講座の開催

令和2年度に引き続き、第6回 防災士養成講座を開催予定。

※過去、平成21年度、平成27年度、平成30年度、令和元年度に同講座を実施

日程：令和3年10月30日（土）9：00～16：30

（予定）令和3年11月13日（土）9：00～16：30

令和3年11月28日（日）9：00～17：45

場所：体育館・青少年センター2階大会議室

受講者予定者：約50名（市職員約25名、市民約20名、消防団員約5名）

6 あしや防災ガイドブックの更新

市民の防災意識啓発を図るため、平成29年度に改定した防災ガイドブックを新たな情報や知識、啓発を反映した上で更新し、全戸配布する。

7 想定最大規模の洪水防災情報マップの作成

市民へ洪水の啓発を図るため、兵庫県が公表した想定最大規模の洪水浸水想定区域図に基づき、防災情報マップを作成。6月中旬に全戸配布。

8 急傾斜地崩壊防止対策事業

現在奥池町及び朝日ヶ丘町にて対策事業が実施されており、奥池町地区は令和4年度以降、朝日ヶ丘町地区は令和3年度に工事が完了する見込み。

対策工法：崩壊土砂防護柵

施工箇所：奥池町地区



※施工イメージ

対策工法：ユニットネット工法

施工箇所：奥池町地区 朝日ヶ丘町地区

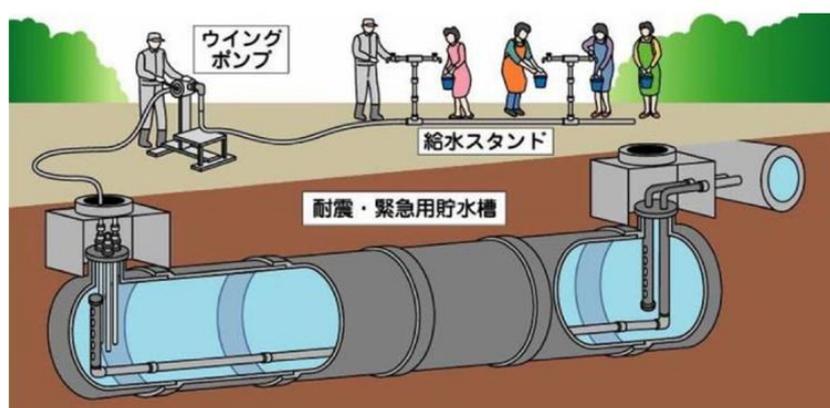


※施工イメージ

9 市立山手中学校耐震性貯水槽設置工事

山手中学校のグラウンド整備工事に伴いグラウンドに耐震性貯水槽(60t)を設置する。

耐震性貯水槽 イメージ図



10 災害協定自治体との交流

従来は、災害時の応援協定を結んでいる自治体の防災総合訓練や防災対応業務の視察及び意見交換を行い、顔の見える関係を作っていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を考慮し、オンライン会議等も活用して情報交換に努める。

1.1 芦屋市強靱化計画の改訂

今年度で平成29年2月に策定された「芦屋市強靱化計画」の計画期間が満了となるため改定する。計画期間は令和4年度から令和8年度までの5年間とする。

1.2 緊急地震速報訓練

6月と11月に気象庁が行う緊急地震速報訓練に合わせて、市内の防災行政無線、戸別受信機、緊急告知ラジオの鳴動を行う。緊急地震速報にあわせてシェイクアウト訓練を実施し、職員は勤務時間中に地震が起きた場合を想定した避難行動の確認も併せて行う。

1.3 要配慮者利用施設への避難確保計画作成推進

平成29年6月の水防法改正に伴い、浸水想定区域や土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設の管理者等は、避難確保計画の作成及び避難訓練の実施が義務となっている。地域防災計画に定められた施設が対象となっており、本市では主に土砂災害警戒区域内の学校園を中心に避難確保計画の作成が進んでいる。令和3年度末までに、市内の土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域及び高潮浸水想定区域の対象施設の作成率が100%になるよう、対象施設の所管課と連携し避難確保計画作成の推進を行っていく。

1.4 災害時応援協定の締結推進

下記の組織と協定締結にむけて協議を進めるとともに、災害時の体制強化のため、新たな災害協定の締結先を検討する。

| 組織 | 主な協定内容 |
|-------------|--------------------|
| 兵庫県弁護士会 | 被災者の生活再建支援等の相談 |
| ネットヨタ神戸株式会社 | 災害時のPHV車貸与等に関する協定 |
| コーナン商事 | 災害時等における物資供給に関する協定 |

その他、ドラッグストア等との協定締結を検討する。

1.5 被災者再建支援システム

災害時の罹災証明発行等の被災者支援強化のためのシステムを導入する。罹災証明発行等に係る業務を電子化し、発行のスピードを上げることで被災者支援をより迅速かつ正確に行えるようにしていく。また、職員の負担を軽減することで災害対応の効率を高めることも目的としている。運用開始は令和4年度を予定。

【参考】平成30年台風第21号に伴う護岸対策工事（兵庫県実施事業）

南芦屋浜の南護岸は令和元年11月から護岸対策工事が始まり、一部供用が開始している。
今後の工事は下記の通り予定されている

＜南芦屋浜 南護岸・ビーチ護岸＞



① の区間：南護岸・ビーチ護岸

令和3年4月13日供用開始

※南護岸の中壁から海側の供用開始時期は未定

② の区間：南護岸・東護岸の一部（南）

工事実施時期 令和2年10月19日～令和3年8月末 予定

※供用開始時期は未定

その他の区間：マリーナ護岸・東護岸の一部（北）・北護岸・西護岸

工事実施時期 令和3年10月ごろから工事を順次開始予定